

()実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項



()改善に向けた取組及び今後の見通し



()改善方針の進捗状況



団体名	市川三郷町
会計名	上水道事業会計

改善額

類型	a
----	---

()推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	改善額合計	補償金免除額
計画目標値(A)	19	10	29	29	50	137	0.5
実績値(B)	19	30	31	31	48	159	
乖離値(C) (B - A)	0.0	20.0	2.0	2.0	2.0	22.0	158.5
乖離率(D) (C / A)	0.0%	200.0%	6.9%	6.9%	-4.0%	16.1%	31700.0%

()要因分析

計画最終年度における未達成の要因	影響額(単位:百万円)						備考	やむを得ない事情
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計		
需要者側での景気悪化による節水意識向上					2	2		22
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
合計	-	-	-	-	2	2		
うち、やむを得ない事情	-	-	-	-	2	2		

()実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

平成23年4月に料金改定を行ったが、平成23年度の給水収益の計画目標値152百万円に対し、実績値142百万円で、目標値の93.42%(110百万円)であったことが要因である。
その理由として、東日本大震災以降の需要者側での景気悪化による節水意識の向上があげられる。使用量の多い施設・企業を見ると、町の施設である福祉保健総合ステーション、市川中学校、学校給食センターにおいて、6,629㎥使用量が減少しており、南興セラミックス、アスクテクニカ本工場、りんどうの里についても2,428㎥の減少となっている。
更に、給水人口も減少し、1年間で131人、1.4%(H23 9,502人、H22 9,633人)の減となり、平成22年度に微増した年間有取水量も34.06千㎥、2.6%(H23 1,276.51千㎥、H22 1,310.57千㎥)減少したことが主な要因である。

()改善に向けた取組及び今後の見通し

今後も、給水収益の増加、支出の削減は見込めないことから、滞納の解消に努めるとともに、平成27年度の料金改定により改善を図る。

()改善方針の進捗状況

()実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

Empty dashed box for input.

()改善に向けた取組及び今後の見通し

Empty dashed box for input.

()改善方針の進捗状況

Empty dashed box for input.

団体名	市川三郷町
会計名	上水道事業会計

累積欠損金比率

類型

C

()推移表

(単位: %)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	108.7	117.6	133.1	149.6	129.5	99.1
実績値(B)	111.6	127.8	147.7	165.9	142.7	
乖離値(C) (A - B)	2.9	10.2	14.6	16.3	13.2	43.6
乖離率(D) (C / A)	-2.7%	-8.7%	-11.0%	-10.9%	-10.2%	-44.0%

()要因分析

(単位: 百万円、%)

	計画最終年度(平成23年度)		再算定値
	計画目標値(A)	実績値(B)	
分母(営業収益等)	156	150	154
分子(累積欠損金)	202	214	197
累積欠損金比率	129.5	142.7	127.9

分母悪化要因

(単位: 百万円)

要因	影響額(百万円)	備考	やむを得ない事情
料金収入の減少	4	料金改定を行ったが需要者側での景気悪化による節水意識向上等による。	22
合計	4		

分子悪化要因

(単位: 百万円)

年度	純損益		乖離値(A-B)	乖離要因	やむを得ない事情
	計画目標値(A)	実績値(B)			
平成19年度	32	38	6	税制改正による減価償却費の増	7
平成20年度	22	26	4	給水人口の減少及び景気悪化による料金収入の減	22
平成21年度	21	25	4	給水人口の減少及び景気悪化による料金収入の減	22
平成22年度	21	24	3	給水人口の減少及び景気悪化による料金収入の減	22
平成23年度	0	5		料金改定による	
合計			17		

()実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

平成23年4月に料金改定を行ったが、平成23年度の給水収益の計画目標値152百万円に対し、実績値142百万円で、目標値の93.42%(\sim 10百万円)であったことが要因である。

その理由として、東日本大震災以降の需要者側での景気悪化による節水意識の向上があげられる。使用量の多い施設・企業を見ると、町の施設である福祉保健総合ステーション、市川中学校、学校給食センター等において、6,629m³使用量が減少しており、南興セラミックス、アステクニカ本工場、りんどうの里についても2,428m³の減少となっている。

更に、給水人口も減少し、1年間で131人、1.4%(H23 9,502人、H22 9,633人)の減となり、平成22年度に微増した年間有取水量も34.06千m³、2.6%(H23 1,276.51千m³、H22 1,310.57千m³)減少したことが主な要因である。

()改善に向けた取組及び今後の見通し

今後も、給水収益の増加、支出の削減は見込めないことから、滞納の解消に努めるとともに、平成27年度の料金改定により累積欠損金の削減を図る。

()改善方針の進捗状況

平成23年4月の料金改定により、給水収益が19百万円増加した。(H23 142百万円、H22 123百万円)